

4
カへ三ヤ
聖徒伝 202

歴史の神と 記憶する民

ネヘミヤ記7～8章

帰還民のルーツ・律法の確認

アウトライン

0. イントロダクション

I. 第一次帰還民名簿 7章

II. 主の律法の確認 8章

III. まとめと適用

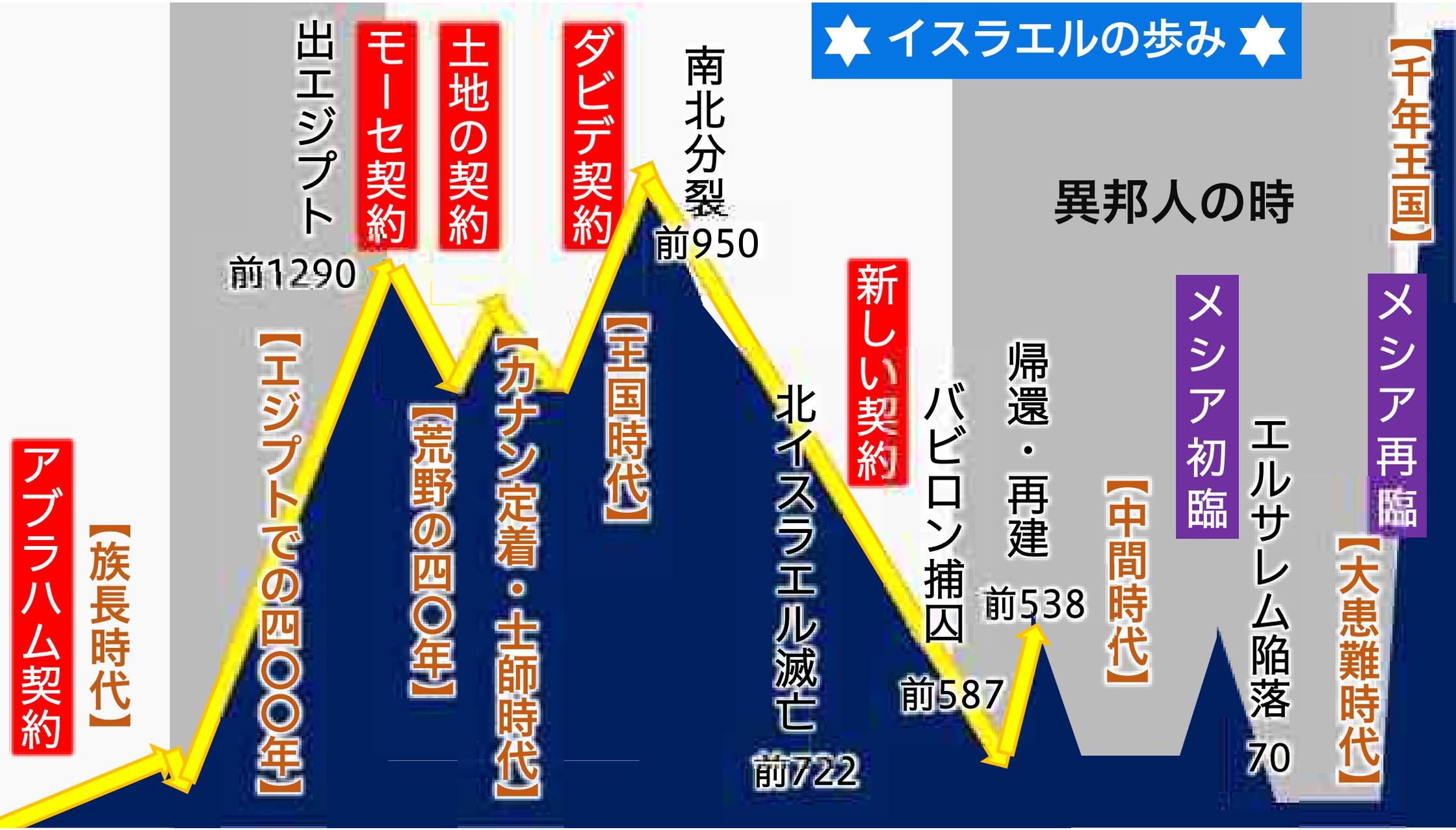
歴史の神に

永遠に名を記念されるために

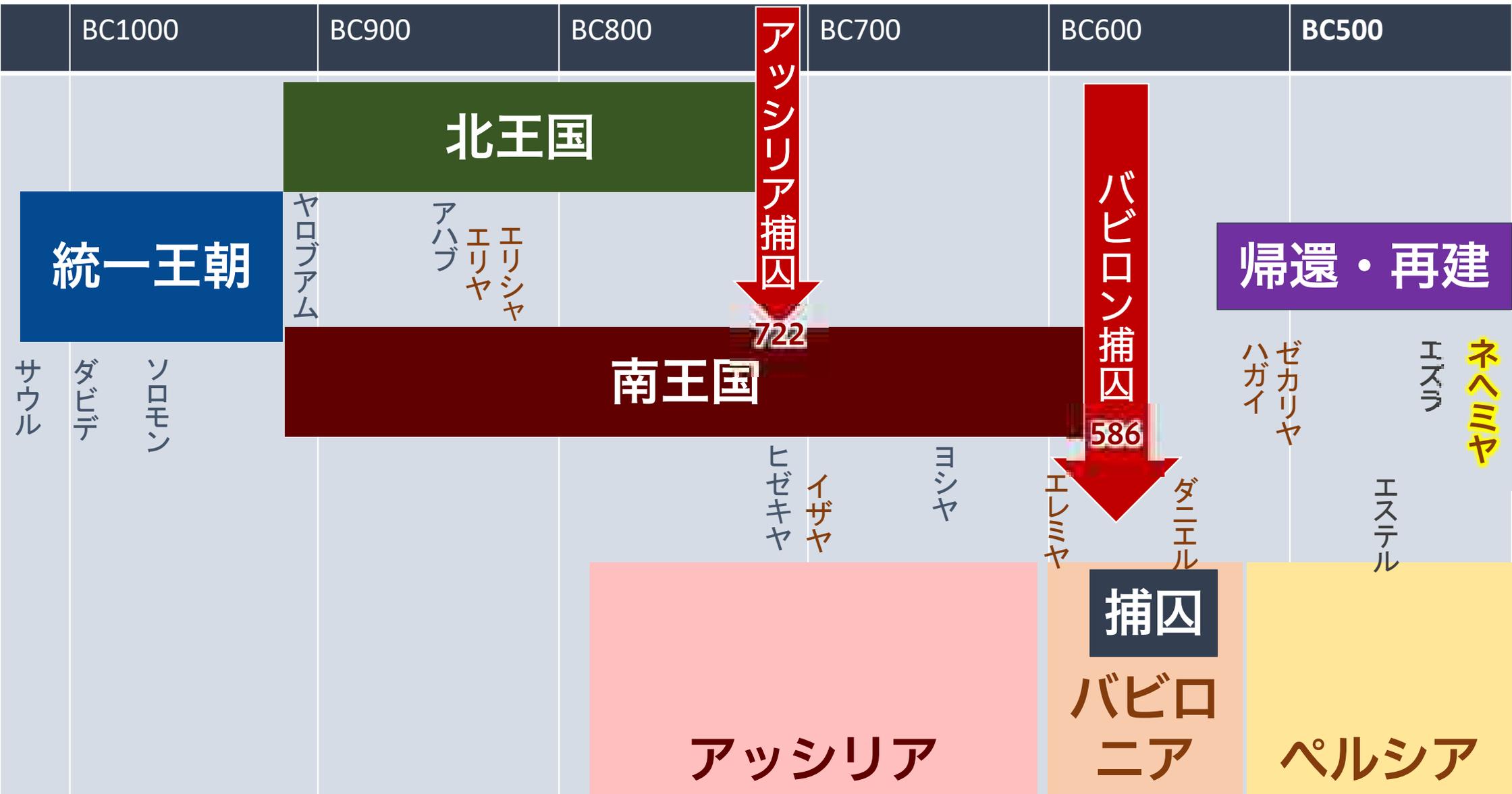


仮庵の祭り

★ イスラエルの歩み ★



イスラエル王国史



ネヘミヤ記の構成

1～6章	城壁の再建	1～2章	準備	
		3章	民の参加	
		4～6章	妨害	
7～13章	信仰の再建	7章	民の登録	
		8章	律法の朗読	
		9～13章	罪の告白と契約の締結	



1. 第一次帰還民名簿

ネヘミヤ記5章

任命 新たな統治体制 ネヘミヤ7:1~2

城壁が築き直され、私が扉を取り付けたとき、門衛、歌い手、レビ人が任命された。

私は兄弟ハナニ*とこの城の長ハナンヤ*に、エルサレムを治めるように命じた。これは、ハナンヤが誠実な人であり、多くの人にまさせて神を恐れていたからであった。

*“恵み深い”

*“神のご加護”

■ 城壁再建後、都の統治体制も再編



警告

- ネヘミヤ7:3~4

私は彼らに言った。「太陽が高く昇って暑くなるまでは、エルサレムの門を開けてはならない。そして彼らが警備に立っている間に、門をしっかりと閉じておきなさい。エルサレムの住民を、それぞれ物見のやぐらか自分の家の前に、見張りとして立てなさい。」

この町は広々としていて大きかったが、その中の住民は少なく、家もまだ十分に建てられていなかった。

■ 都の再建は途上。外敵への警戒も継続。

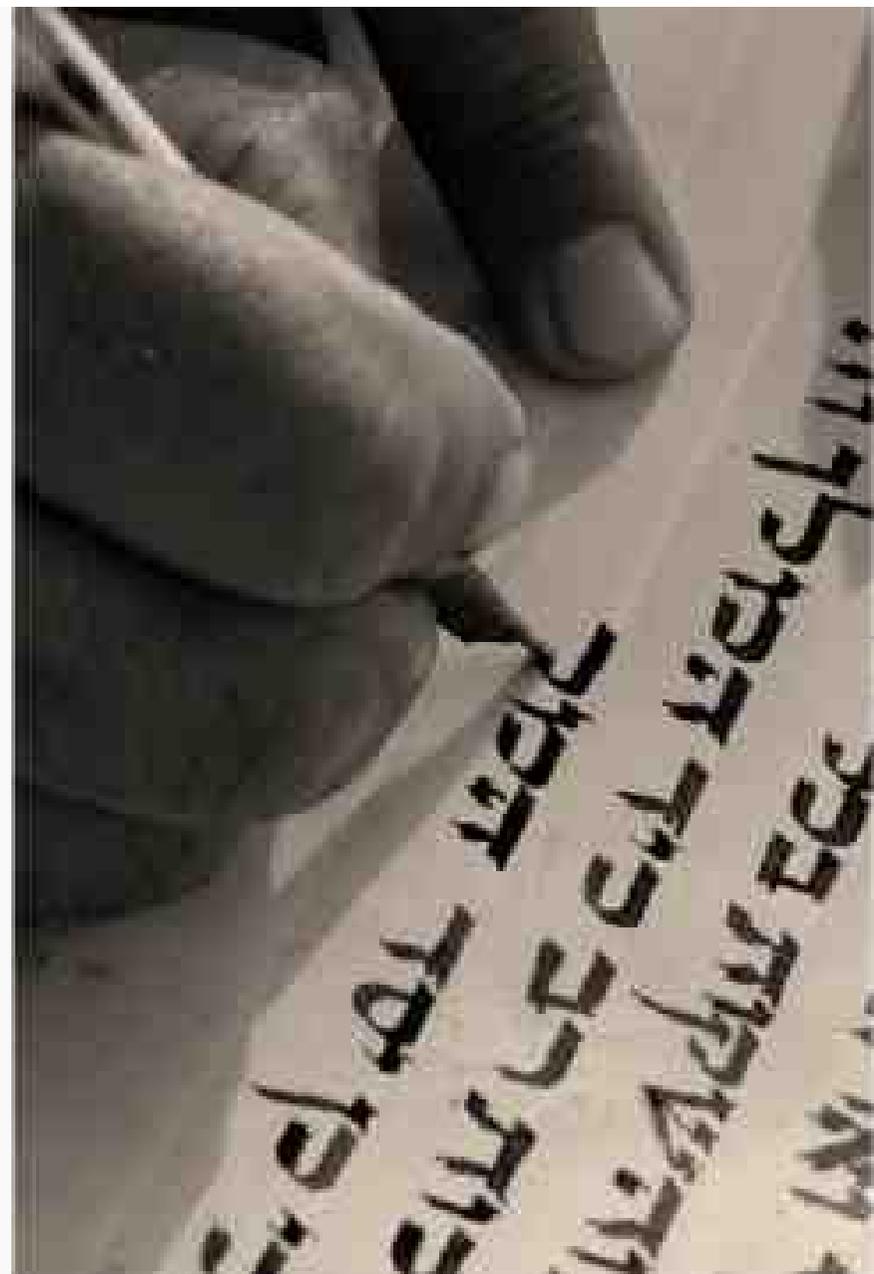


調査 帰還民の系図 ネヘミヤ7:5

私の神は私の心に示して、私に有力者たちや、代表者たちや、民衆を集めて、彼らの系図を記載させた。私は最初に上つて来た人々の系図*を発見し、その中に次のように書かれているのを見つけた。

* 第一次帰還民(エズラ記2章)の系図

→94年前のもの



確認される第一次帰還民名簿

年代	イスラエル	ペルシャ
前538年	約5万人が帰還 ゼルバベル	バビロン陥落 キュロス王の布告
前520年	ハガイ・ゼカリヤの帰還	ダレイオス王 第2年
前515年	神殿の完成	
前476年	マラキ?!	エステルがペルシャの王女に クセルクス王
前458年 (80年後)	エズラ のエルサレム到着 律法の確認・霊的覚醒	アルタクセルクス1世
前444年 (14年後)	ネヘミヤが帰還・城壁再建	

ルーツの確認

ゼカリヤ書

エズラ記

第一次帰還民名簿

但し書き ネヘミヤ記7:6

バビロンの王ネブカドネツアルが引いて行った捕囚の民で、その捕囚の身から解かれてエルサレムとユダに上り、それぞれ自分の町に帰ったこの州の人々は次のとおりである。



第一次帰還民名簿

ネヘミヤ記7:7

彼らは、ゼルバベル、ヨシュア、ネヘミヤ、アザルヤ、ラアムヤ、ナハマニ、モルデカイ、ビルシヤン、ミスペレテ、ビグワイ、ネフム、バアナと一緒に帰って来た。イスラエルの民の人数は次のとおりである。



第一次帰還民名簿

部族たち ネヘミヤ記7:8～16

パルオシュ族、二千百七十二人。

シェファテヤ族、三百七十二人。

アラフ族、六百五十二人。

ヨシュアとヨアブの二族からなる

パハテ・モアブ族、二千八百十八人。

エラム族、一千二百五十四人。ザト族、八百四十五人。

ザカイ族、七百六十人。

ビヌイ族、六百四十八人。ベバイ族、六百二十八人。



第一次帰還民名簿

部族たち

ネヘミヤ記7:17~25

アズガデ族、二千三百二十二名。

アドニカム族、六百六十七名。

ビグワイ族、二千六十七名。

アディン族、六百五十五名。

ヒゼキヤ族、すなわちアテル族、九十八名。

ハシュム族、三百二十八名。

ベツァイ族、三百二十四名。

ハリフ族、百十二名。

ギブオン族、九十五名。



第一次帰還民名簿

町々の民 ネヘミヤ記7:26～31

ベツレヘムとネトファの人々、百八十八人。

アナトテの人々、百二十八人。

ベテ・アズマウエテの人々、四十二人。

キルヤテ・エアリムとケフィラとベエロテの人々、
七百四十三人。

ラマとゲバの人々、六百二十一人。

ミクマスの人々、百二十二人。



第一次帰還民名簿

町々の民 ネヘミヤ記7:32～38

ベテルとアイの人々、百二十三人。

別のネボの人々、五十二人。

別のエラム族、一千二百五十四人。

ハリム族、三百二十人。

エリコ人、三百四十五人。

ロデ人とハディデ人とオノ人、七百二十一人。

セナア人、三千九百三十人。



第一次帰還民名簿

祭司たち ネヘミヤ記7:39～42

祭司は、ヨシュアの家系のエダヤ族、九百七十三人。

イメル族、一千五十二人。

パシュフル族、一千二百四十七人。

ハリム族、一千十七人。



第一次帰還民名簿

レビ人 ネヘミヤ記7:43～45

レビ人は、ホダウヤ族のヨシュアとカデミエルの二族、七十四人。

歌い手は、アサフ族、百四十八人。

門衛は、シャルム族、アテル族、タルモン族、アクブ族、ハテイタ族、ショバイ族、百三十八人。



第一次帰還民名簿

しもべたち ネヘミヤ記7:46～54

宮のしもべは、ツイハ族、ハスファ族、タバオテ族、
ケロス族、シア族、パドン族、
レバナ族、ハガバ族、シャルマイ族、
ハナン族、ギデル族、ガハル族、
レアヤ族、レツイン族、ネコダ族、
ガザム族、ウザ族、パセアハ族、
ベサイ族、メウニム族、ネフィシェシム族、
バクブク族、ハクファ族、ハルフル族、
バツリテ族、メヒダ族、ハルシャ族、



第一次帰還民名簿

しもべたち ネヘミヤ記7:55～60

バルコス族、シセラ族、テマフ族、

ネツィアハ族、ハティファ族。

ソロモンのしもべたちの子孫は、ソタイ族、ソフェレテ族、
ペリダ族、

ヤアラ族、ダルコン族、ギデル族、

シェファテヤ族、ハティル族、ポケレテ・ハツェバイム族、
アモン族。

宮のしもべたちと、ソロモンのしもべたちの子孫は、

合計三百九十二人。

第一次帰還民名簿

出自不明の人々 ネヘミヤ記7:61～62

次の人々はテル・メラフ、テル・ハルシャ、ケルブ、アドン、イメルから引き揚げて来たが、自分たちの先祖の家系と血統がイスラエル人であったかどうかを証明できなかった。

デラヤ族、トビヤ族、ネコダ族、六百四十二人。

第一次帰還民名簿

系図のない祭司 ネヘミヤ記7:63～65

祭司の中では、ホバヤ族、ハ・コツ族、バルジライ族。このバルジライは、ギルアデ人バルジライの娘の一人を妻にしたので、その名で呼ばれていた。

これらの人々は自分たちの系図書きを捜してみたが、見つからなかったなので、彼らは祭司職を果たす資格がない者とされた。

そのため総督は彼らに、ウリムとトンミムを使える祭司が起こるまでは、最も聖なるものを食べてはならないと命じた。

第一次帰還民名簿

全会衆の合計 ネヘミヤ記7:66

全会衆の合計は四万二千三百六十人であった。

このほかに、彼らの男女の奴隷が七千三百三十七人いた。

また、彼らには男女の歌い手が二百四十五人いた。

らくだは四百三十五頭。ろばは六千七百二十頭であった。

第一次帰還民名簿

町々の民 ネヘミヤ記7:69～72

一族のかしらの何人かは、工事のためにささげ物をした。総督は資金として金一千ダリク、鉢五十、祭司の長服五百三十着を献げ、また、一族のかしらのある者は、工事資金として金二万ダリク、銀二千二百ミナを献げた。

そのほかの民の献げたものは、金二万ダリク、銀二千ミナ、祭司の長服六十七着であった。

こうして、祭司、レビ人、門衛、歌い手、民のある者たち、宮のしもべたちが、すなわち、全イスラエルが自分たちの元の町々に住んだ。

第一次帰還民

エルサレムの氏族	18氏族	15,604名	
近郊の町村出身者	21町村	8,540名	ベツレヘム、ベテル、アイ…
祭司	4部族	4,289名	
レビ	9部族	341名	
しもべ	45部族	392名	
未認証部族	3部族	652名	
未認証祭司	3部族		
奴隸・歌い手	奴隸 7,337名	歌い手 245名…捕囚先で奴隸に？	
総合計	49,942名 (エズラ2章は49,897名…歌い手の数え方の違い)		



II. 主の律法の確認

ネヘミヤ記8章

エルサレムの仮庵の祭り

集会 民の求め ネヘミヤ7:72~8:1

イスラエルの子らは自分たちの町々にいたが、第七の月が来たとき、民全体が、一斉に**水の門**の前の広場に集まって来た。そして彼らは、【主】がイスラエルに命じた**モーセの律法の書**を持って来るように、**学者エズラ***に言った。

*ネヘミヤの十数年前に帰還

■城壁再建工事を経て、民の御言葉を求める思いが強まっていた。



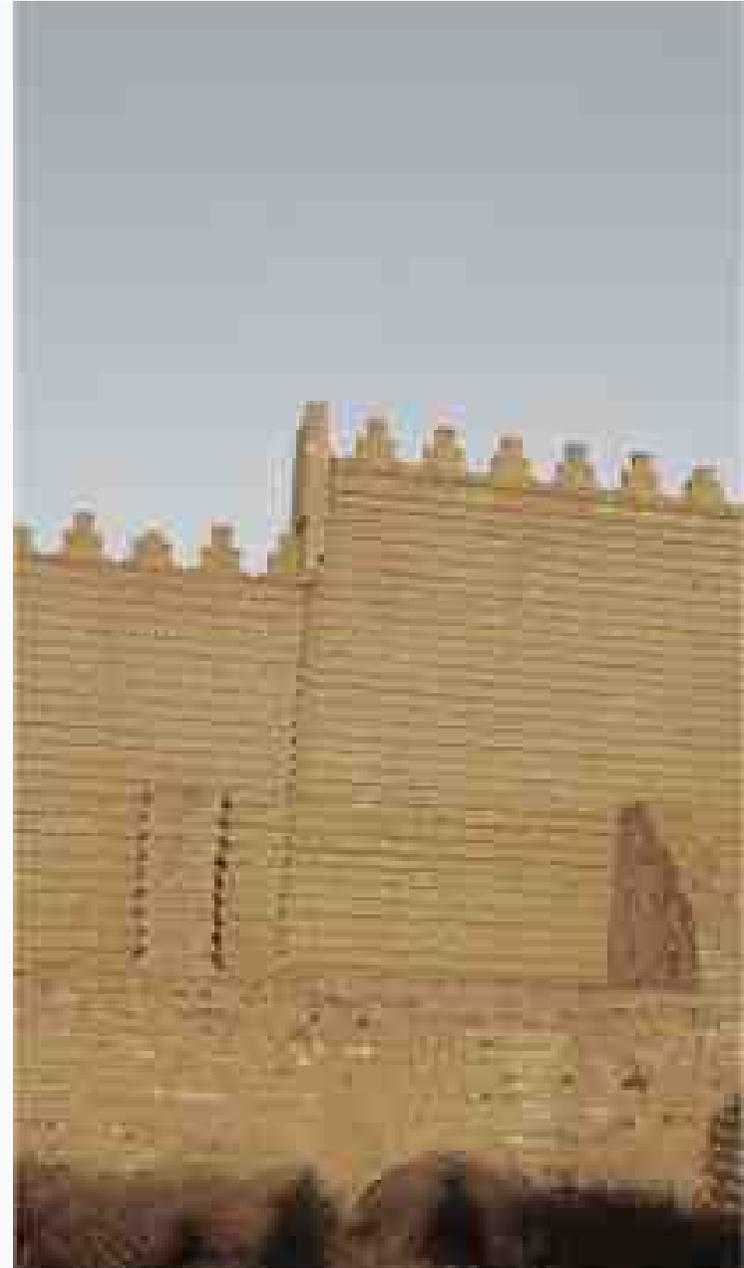
水の門

集会 律法 ネヘミヤ8:2~3

そこで、第七の月の一日*に祭司エズラは、男、女、および、聞いて理解できる人たちすべてからなる会衆の前に律法を持って来て、水の門の前の広場で夜明けから真昼まで、男、女、および理解できる人たちの前で、これを朗読した。民はみな律法の書に耳を傾けた。

*秋の祭りの始まり、“ラツパの祭り”の日

➡捕囚以降は、この日から新年



第七の月の一日 ラッパの祭り

■ レビ記23:24～25

「イスラエルの子らに告げよ。

第七の月の一日は あなたがたの全き休みの日であり、

角笛を吹き鳴らして 記念する聖なる会合を開く。

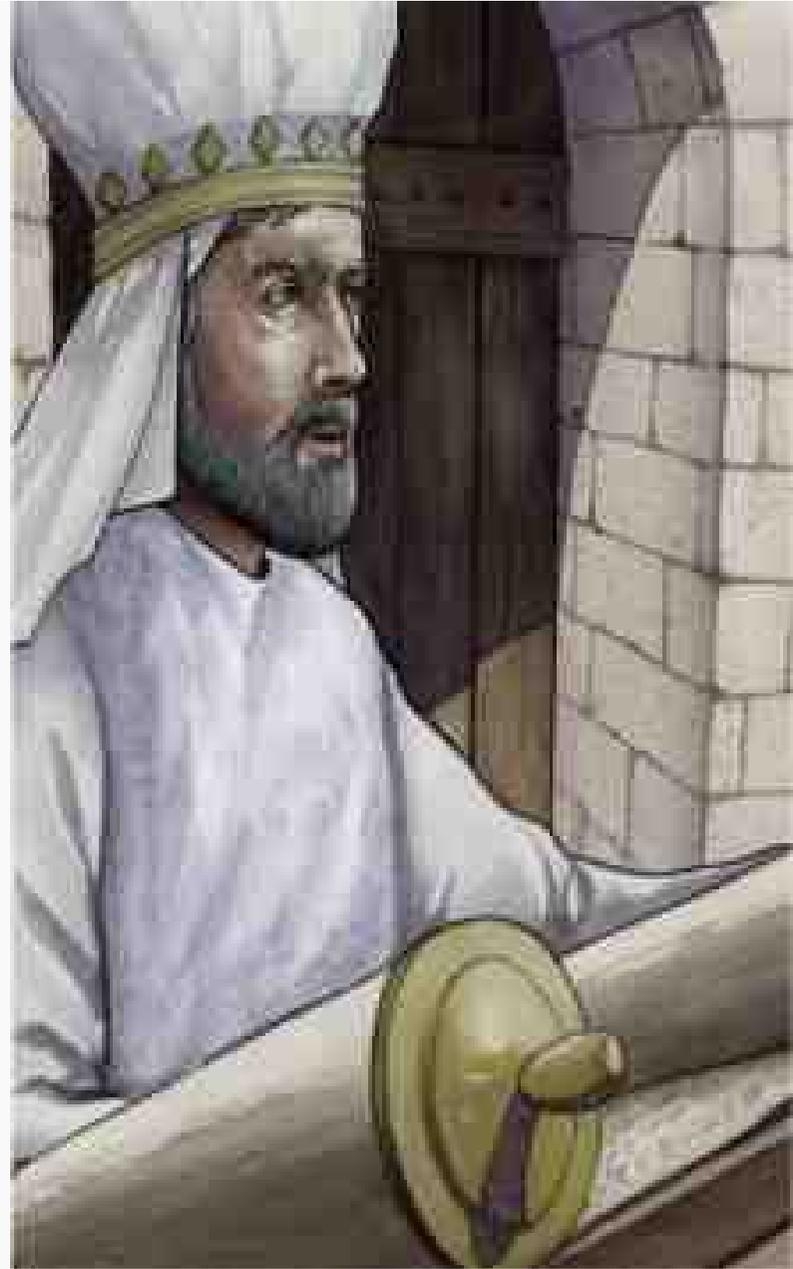
あなたがたは、いかなる労働もしてはならない。

食物のささげ物を【主】に献げなさい。」

集会 登壇 ネヘミヤ8:4

学者エズラは、このために作られた木の壇の上に立った。彼のそばには、右手にマティヤ、シュエマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルキヤ、マアセヤ*が立ち、左手にペダヤ、ミシャエル、マルキヤ、ハシユム、ハシユバダナ、ゼカリヤ、メシユラム*が立った。

*祭司たち。…律法の教師でもあっただろう

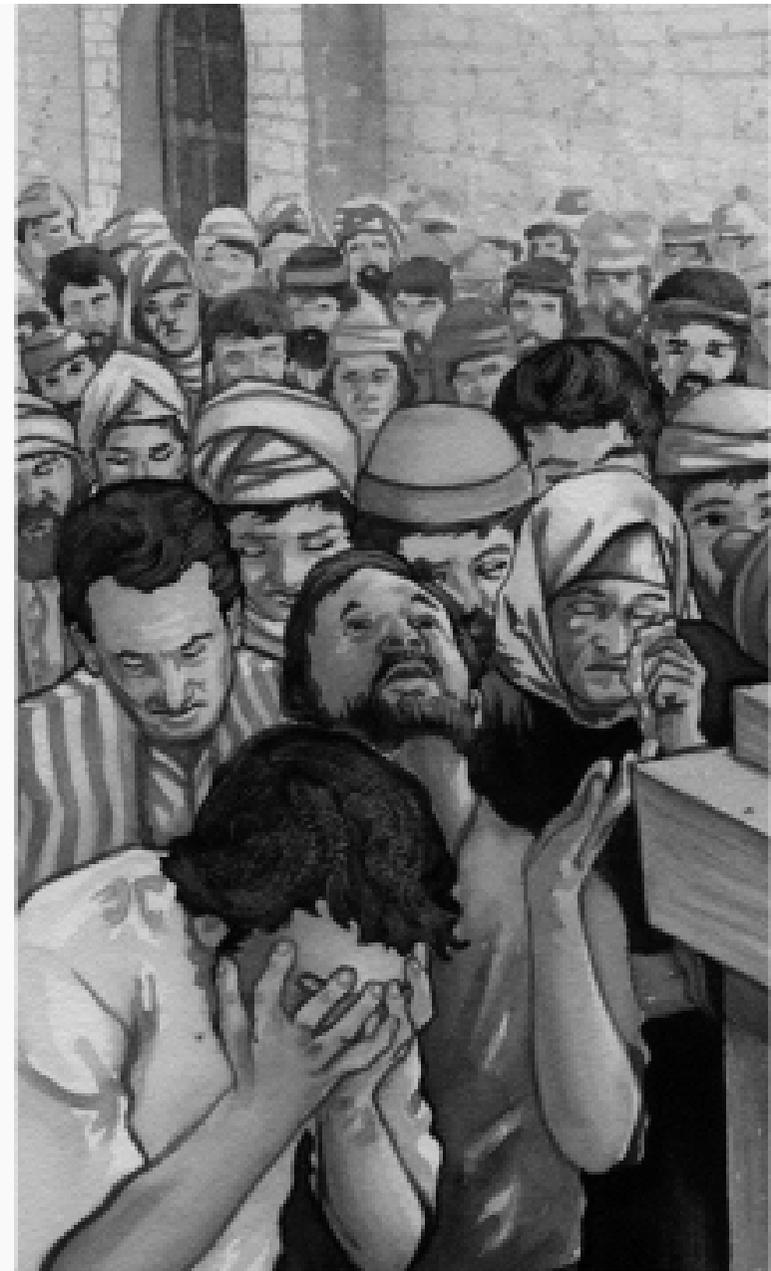


集会 主への礼拝 ネヘミヤ8:5~6

エズラは民全体の目の前で、その書を開いた。彼は民全体よりも高いところにいたのである。彼がそれを開くと、民はみな立ち上がった。

エズラが大いなる神、【主】をほめたたえ、民はみな両手を上げながら「アーメン、アーメン」と答え、ひざまずき、顔を地に伏せて【主】を礼拝した。

■ 聖書の朗読が、そのまま礼拝に



集会 解き明かし ネヘミヤ8:7~8

ヨシュア、バニ、シェレベヤ、ヤミン、アクブ、シャベタイ、ホディヤ、マアセヤ、ケリタ、アザルヤ、エホザバデ、ハナン、ペラヤなどレビ人たちは、民に律法を解き明かした*。その間、民はその場に立っていた。

彼らが神のみおしえの書を読み、その意味を明快に示したので、民は読まれたことを理解した。

*全体での朗読と学びの後、
グループごとに解き明かしを行った？

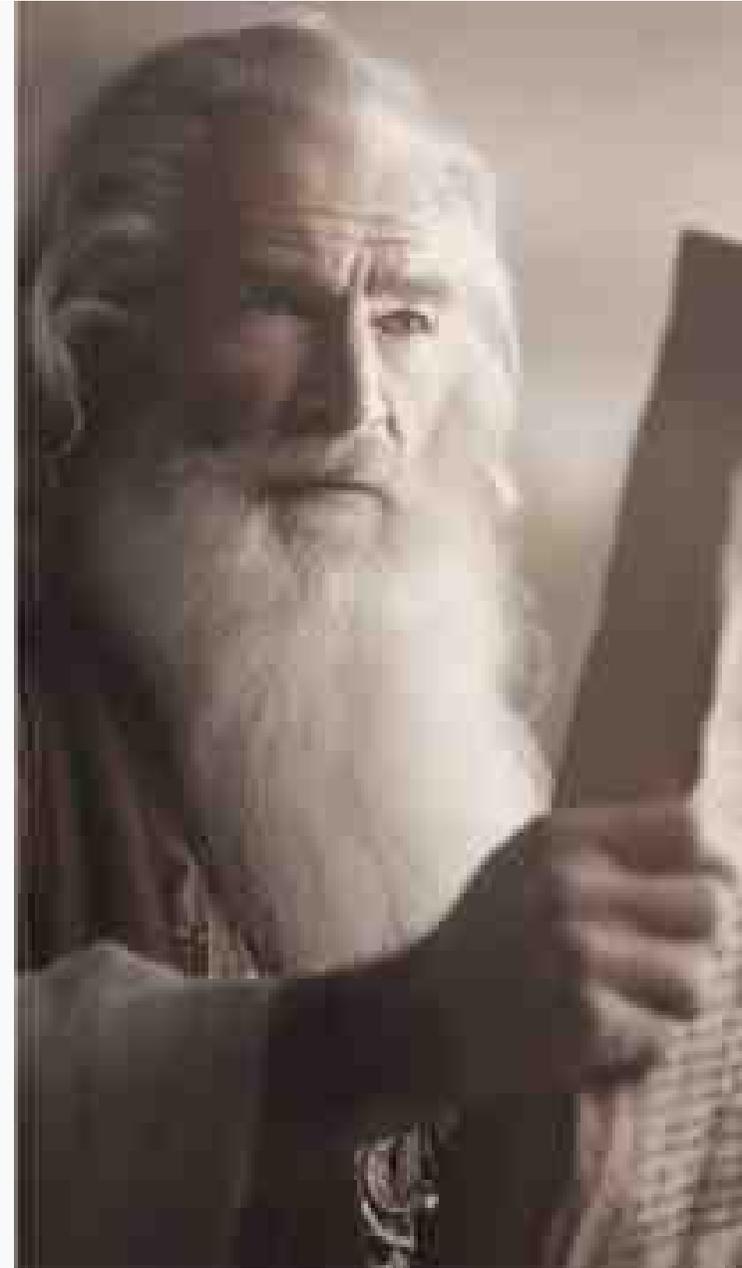


集会 聖なる日 ネヘミヤ8:9

総督であるネヘミヤと、祭司であり学者であるエズラと、民に解き明かすレビ人たちは、民全体に向かって言った。「今日は、あなたがたの神、【主】にとって聖なる日*である。悲しんではならない。泣いてはならない。」民が律法のことばを聞いたときに、みな泣いていた*からである。

*イスラエルの罪を思う、悔い改めの涙

■主が聖とされ、分かちきよめる世界では、悲しみも涙もなくなる。



集会 主を喜ぶこと ネヘミヤ8:10

さらに、彼は彼らに言った。「行って、ごちそうを食べ、甘いぶどう酒を飲みなさい。何も用意できなかった人には食べ物を贈りなさい。今日は、私たちの主にとって聖なる日である。悲しんではならない。【主】を喜ぶことは、あなたがたの力だからだ。」

■ ラッパの祭りが示すのは、「携挙」

➔ 主の御許に挙げられる、喜びの時



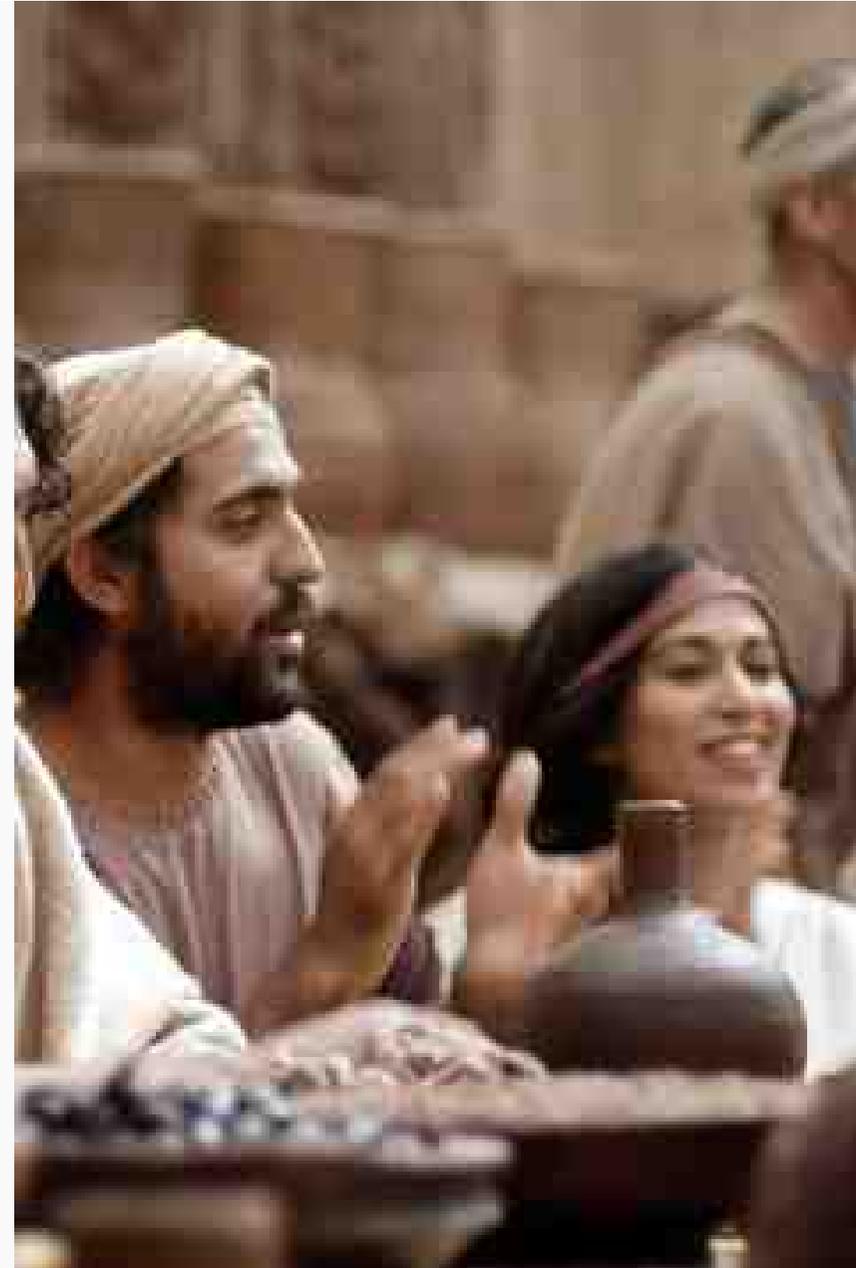
集会 喜びの日 ネヘミヤ8:11~12

レビ人たちも、民全体を静めながら言った。「静まりなさい。今日は聖なる日だから。悲しんではならない。」

こうして、民はみな帰って行き、食べたり飲んだり、ごちそうを贈ったりして、大いに喜んだ。教えられたことを理解した*からである。

*大事なのは、

主の教えを理解して実行すること!!



集会 仮庵祭 ネヘミヤ8:13~14

二日目に、民全体の一族のかしらたちと、祭司たち、レビ人たちは、律法のことばをよく調べるために、学者エズラのところに集まって来た。

そして彼らは、【主】がモーセを通して命じた律法に次のように書かれているのを見出した。すなわち、「イスラエルの子らは**第七の月の祭りの間***、仮庵の中に住まなければならない。」

* 仮庵祭は第七の月の15日から➡ 2週間後



第七の月の15～22日 仮庵の祭り

■レビ記23:24～36

この第七の月の十五日には、七日間にわたる【主】の**仮庵の祭り**が始まる。

最初の日には、聖なる会合を開く。あなたがたは、いかなる労働もしてはならない。

七日間、あなたがたは食物のささげ物を【主】に献げなければならない。八日目も、あなたがたは聖なる会合を開かななければならない。あなたがたは食物のささげ物を【主】に献げる。これはきよめの集会であり、いかなる労働もしてはならない。

集会 仮庵 ネヘミヤ8:15

また、『山へ出て行き、オリーブの葉、野生のオリーブの木の葉、ミルトス*の葉、なつめ椰子の葉、また茂った枝木などの枝を取って来て、書かれているとおりに仮庵を作るように』と、自分たちのすべての町とエルサレムに通達を出して、知らせなければならない』とあった。

*生命力が強く、干魃にも耐える

➡不死、成功、繁栄の象徴



集会 仮庵 ネヘミヤ8:16~17

そこで民は出て行き、枝を取って来て、それぞれ自分の家の屋根の上や庭の中、また神の宮の庭、水の門の広場、エフライムの門の広場に、自分たちのために仮庵を作った。

捕囚から帰って来た全会衆は仮庵を作り、その仮庵に住んだ。ヌンの子ヨシュアの時代から今日まで、イスラエルの子らはこのようにしていなかったもので、それは非常に大きな喜びであった。

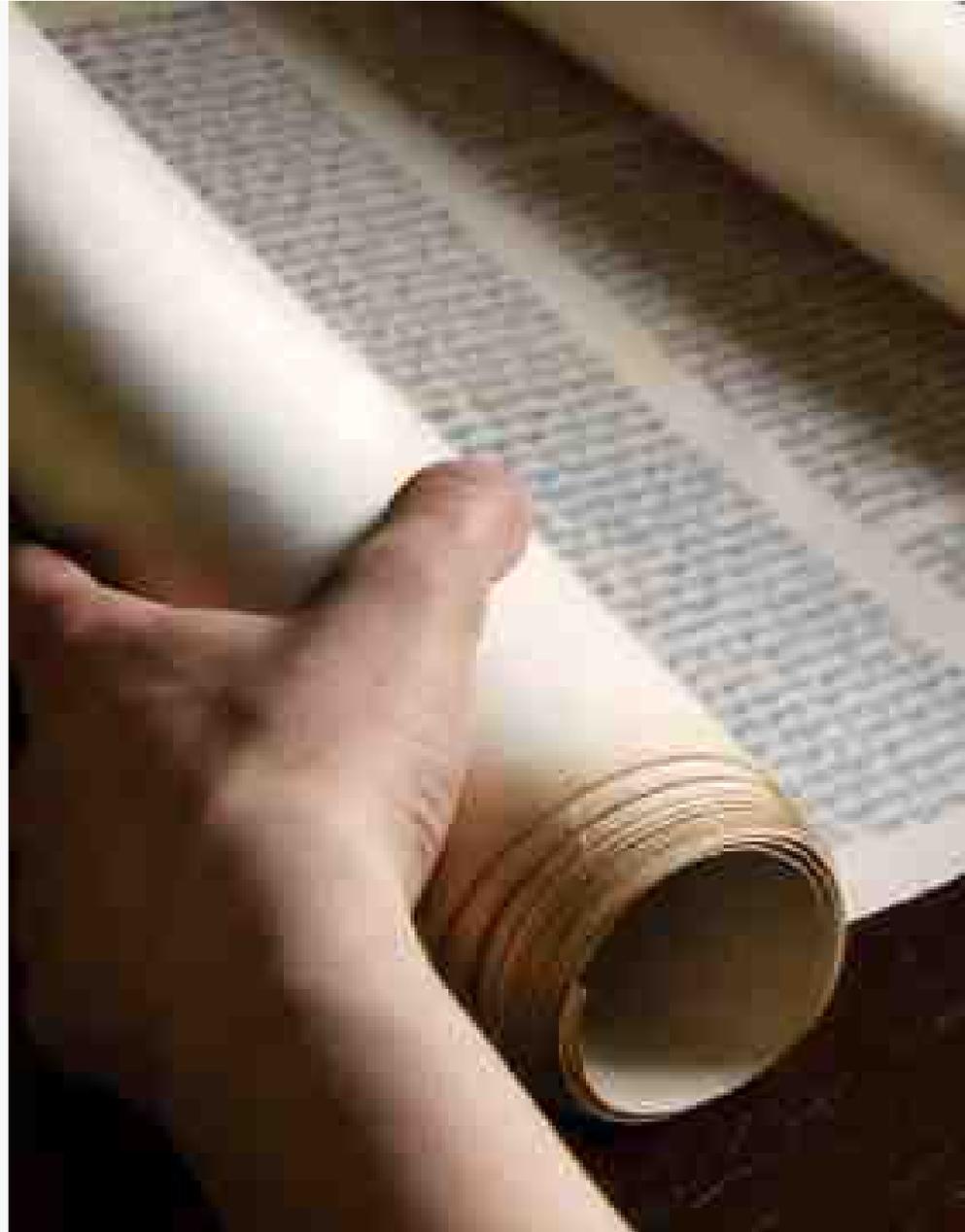


警告 律法の朗読 ネヘミヤ8:18

神のみおしえの書は、最初の日から最後の日まで毎日朗読された。祭りは七日間祝われ、八日目*には定めにしたがって、きよめの集会が行われた。

*現在はシムハット・トーラーの祝日
(トーラーの喜び)

➡一年の律法朗読サイクルの節目



Ⅲ. まとめと適用

歴史の神に永遠に名を記念されるために



西壁・仮庵の祭り

歴史を記憶する民

- 城壁再建後、読み上げられた、90年前の第一次帰還民の名簿
 - ➔ 確認された、帰還民の苦難の歴史
 - ➔ 背後には、歴史を支配する神の御手
- イスラエルは記憶の民。
なぜなら、主は、**歴史を支配される神**だから。
- 聖書ほど、古い昔から一つの民族の歴史を刻み続けた書物はない。
 - …アブラハムから、出エジプト、バビロン捕囚、帰還
 - …メシア誕生、メシアの御業の成就、教会の誕生、拡大

律法と仮庵の祭り

- 秋の祭りの始め、第七月の1日に、人々は集い、律法を朗読した。
→ **ラッパの祭り**。携拳を示す日
- 第七月の15日から、**仮庵の祭り**を盛大に祝った。
→ 第一次帰還民が神殿の基礎を築いた時にも仮庵祭を祝った
- 7日間、イスラエルは**律法を朗読した**。
→ 現在も、仮庵祭開けが、年間の律法朗読の節目の日
- 仮庵祭が示すのは、**メシアの再臨、神の王国の建設**
→ イスラエルに対する旧約聖書の預言のゴール

記憶し続ける民

- 第二次世界大戦・ナチスによるホロコースト
当時のユダヤ人の1/3、600万人が虐殺
- 犠牲者の追悼のために建てられたのが、
ヤド・ヴァシエム(記念の名)

イザヤ書56:5

「わたしの家、わたしの城壁の中で、
息子、娘にもまさる**記念の名**を与え、
絶えることのない永遠の名を与える。」



記念の名 ヤド・ヴァシエム



名前の本



名前の空間

追記された悲痛な記憶

2023年10月7日 シムハット・トーラーの安息日
ハマスによる大規模テロで1,400人が虐殺、
240人が拉致された。

2023/10/7 シムハット・トーラー

追記された悲痛な記憶

- 被害の全容は今だ明らかでない。切り刻まれ、焼かれ、あまりに損壊が激しく、身元不明の遺体も多く残されている。
- 考古学者まで参加し、遺体の一部でも遺族に返し、一人一人の生きた証しを残そうと懸命な努力が続けられている。
- 死者の追悼のために繰り返される言葉がある。
“May their memories be a blessing.”
彼らの記憶が祝福となりますように



約束された、罪を犯した民の救い

■ イザヤ書56:1,3~5

【主】はこう言われる。「公正を守り、正義を行え。わたしの救いが来るのは近いからだ。わたしの義が現れるのも。」

【主】に連なる異国の民は言ってはならない。「【主】はきっと、私をその民から切り離される」と。宦官も言ってはならない。

「ああ、私は枯れ木だ」と。

なぜなら、【主】がこう言われるからだ。「わたしの安息日を守り、わたしの喜ぶことを選び、わたしの契約を堅く保つ宦官たちには、わたしの家、わたしの城壁の内で、息子、娘にもまさる記念の名を与え、絶えることのない永遠の名を与える。」

永遠に刻まれる名

■ 黙示録3:3,5

だから、どのように受け、聞いたのか思い起こし、それを守り、悔い改めなさい。目を覚まさないなら、わたしは盗人のように来る。わたしがいつあなたのところに来るか、あなたには決して分からない。

勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。
またわたしは、その者の名を**いのちの書**から決して消しはしない。
わたしはその名を、わたしの父の御前と御使いたちの前で言い表す。

主イエスを信頼し、永遠の命を約束される希望の道がある

★ 私たちが覚え続けているべきこと ★

- 今なお悪魔が不法占拠する世界には、悲劇も不条理も絶えない。求められるのは、歴史をも支配される主を信頼すること。
- 主イエスは再び来られ、悪を裁き、神の王国を建設される。イスラエルの救いをとりなし願ひ、主の再臨を待ち望もう。
- 大切なのは、世に名をなすことでなく、命の書に名を刻まれること。私の小さな生涯が永遠の記憶となるように、主を信頼して歩もう。

私、あなたの記憶・命が、主の永遠の祝福となりますように

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③ 三日目に復活したこと、を信じます。

わたし な えいえん しょ しる
私の名は、永遠にいのちの書に記されました。

かんしゃ よろこ ちじょうしょうがい あゆ
感謝と喜びをもって、この地上生涯を歩ませてください。

くらやみ なか いま き い いのち ふくいん
暗闇の中、今にも消え入りそうな命に、福音をもたらすために、

わたし もち つか
どうか、私を用い、遣わしてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」